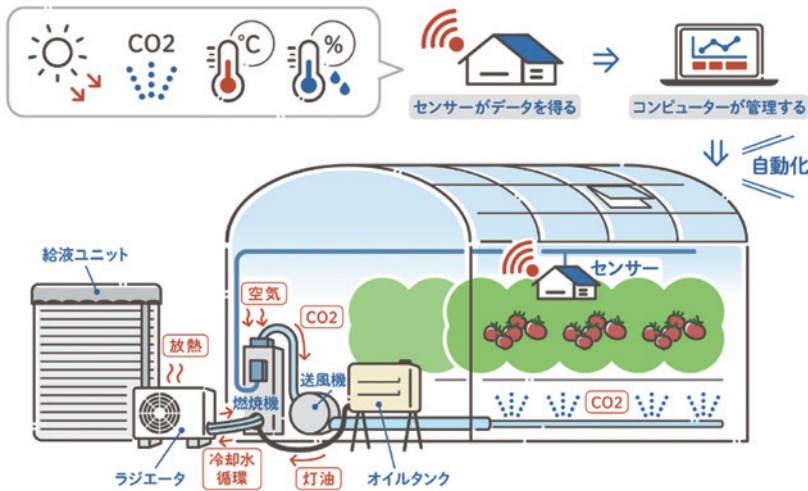


ハウスでの環境データ活用の仕組み



各種センサでハウス内外の環境を測定し、コンピューターにデータが送られます。
センサ値と設定値に基づいて、コンピューターが各種機器を動かし、植物に最適な環境を作ります。

※環境制御の例「CO₂濃度コントロールの様子」
日射量やCO₂濃度、天窓開度などをセンサで測定し、適正なCO₂濃度を保っている

■センサで取得するデータの種類例

日射、外気温度、ハウス内温度、湿度、CO₂濃度、作業、労務時間 など

■制御する各種設備の例

かん水設備

(給液ユニット、液肥混入機、作物へのかん水を行う設備)



肥料は自動で混合され、配管を通して適正な養液が植物まで送られる。日射や水分センサの値などを元に自動で管理される。排液のリサイクル設備を併設していることもある。

天窓（てんそう）



温湿度調整などに使用。環境センサの値を元に、開閉や開度で調整する。

カーテン



開閉することで、日射が強い時に植物に当たる光を制限する。遮熱、遮光の目的で使用される。

レールヒーティング



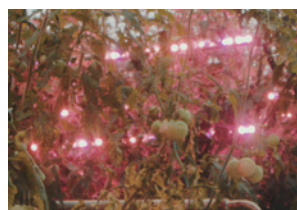
お湯を通し、ハウス内温度を上げる暖房として使用する。作業用台車のレールとしても併用する。

CO₂発生器



ガスを燃やしCO₂を発生させハウス内に送り込むことで、作物の光合成を促進させる。

LEDライト



太陽光に加え、LEDライトで補光することで、作物の光合成を促進させる。

外気導入設備

(空気調和設備、空調機)



ハウス内外の空気を調整して、最適な空気を作物に送ることができる。